

## 商店街名：大府商工会議所【大府市、平成 28 年度指定】

### 1 活性化モデル商店街の概要

#### ●キャッチフレーズ

「おかげさま」精神を持ち、店のファンづくりを経営の基幹とする個店を集めた商店街をつくる。

#### ◎商店街の将来ビジョン

##### 【現状】

商業の現状をみると事業所数は 495 店から 391 店と（平成 24 年度/平成 19 年度対比）減少しており、年々大府市の小売業（小規模商店）は衰退を続けている。

##### 【課題】

意欲ある個店が力をつけ、且つ個店の魅力を創出し、お客と顔と顔を合わせる「ふれ合い」を大切にする事で大型ショッピングセンターにない特長を出すことが求められる。

##### 【対策】

大府市は、2010 年～2020 年の第 5 次総合計画（平成 22 年 1 月発行）大府市総合計画を踏まえ、また従来からの活動の問題点を加味して次のことを重点方策として実施する。

- ・スタンプラリーなどイベントによる交流を重点とした一店逸品・逸サービス運動から、消費者の目線でモノづくり・店づくりを重点とした一店逸品・逸サービス運動への転換
- ・地域資源を活用した共同で取り組む「健康逸品」の開発
- ・交流人口を増やすためのイベントの企画・実施

#### ◎具体的に取組む事業内容

##### ○個性・魅力の創出事業（28 年度～32 年度）

- ①参加店皆で創り上げる「おおぶ・逸品運動事業」の実施（28 年度～32 年度）
- ②ふれあいゼミナールの実施（28 年度～32 年度）
- ③イベントの企画・運営、地域イベントへの個店の参加（28 年度～32 年度）
- ④大府あきんど塾の開催（28 年度～32 年度）
- ⑤共同DM発送の実施（28 年度～32 年度）
- ⑥店の魅力を照会する冊子を作成するなどの情報発信（28 年度～32 年度）
- ⑦地域資源を活用した健康逸品の開発・販売に関する調査・研究（28 年度～）、試作（29 年度～）、披露（30 年度～）、改善（31 年度）、商品化（32 年度）

## 2 活性化モデル商店街の実績・成果等

### ◎商店街の将来ビジョンの実績

大府市商業者を取り巻く環境は商業者数の減少やコロナウイルス感染拡大もあり、決して楽観できるような状況ではないが、商店街活性化プランに基づく事業に取り組んだことで市内商業者の横のつながりが強化され、地域の活性化が図られた。特に逸品運動については、モノづくり・コトづくりにシフトしたことで、参加者同士の意見交換が活発に行われ、個社の売上増加や維持に大きな効果が出ている。前向きな商店主が取組前に比べて増加したことが最大の事業実施効果であると考えている。

また、健康をキーワードにした商品・サービスについても目標数値を上回って取り組むことができた。

### ◎事業実績

#### ○個性・魅力の創出事業（H28年度～R2年度）

- ・参加店皆で創り上げる「おおぶ・逸品運動事業」の実施
- ・ふれあいゼミナールの実施
- ・大府あきんど塾の開催
- ・イベントの企画・運営、地域イベントへの参加、情報発信
- ・地域資源を活用した健康逸品の開発・販売に関する商品化の実施 etc

### ◎事業の効果

- ・逸品参加店アンケートにて、本事業が知名度向上に寄与していると参加店から報告があった。
- ・大府商工会議所会員数が微増となった。（1707→1710）
- ・受け身の商業者が少なくなり、積極的に事業を発案する事業者が増えたため、事業参加者の年齢層が60代以上→40代中心となった。

### ◎新型コロナウイルス感染症を踏まえて取組んだこと

新しい生活様式へ対応すべく、飲食店ではテイクアウトやデリバリー、小売・サービス業ではオンラインや非接触への転換などを検討し市内事業者を取りまとめたチラシやHP作成した。

感染症対策についても愛知県の安全・安心施設への登録を推進した。これらの取組もあり、平成28年4月に比べて令和3年3月の段階で大府商工会議所の会員数は微増となっている。

### ◎その他の成果

- ・隣接町である東浦町の商業者と連携して逸品事業に取り組み、商圏拡大に務めた。
- ・若手経営者の参加が増えたことで、アナログ重視からIT活用へのシフトが進みつつある。（ビジネスチャットツールの活用やオンライン会議など）

品名 健康逸品

薬学と自然の恵みから生まれた、  
肌と心にやさしい無添加化粧液。



こだわり 選んだ薬物の命を  
キヌヤクインのみを使用。製法  
ですべてしています。

(健康逸品 オリジナル化粧水)